[別紙２]

審査の結果の要旨

氏名　　福山　祥子

本研究はトンガ人の肥満に寄与する環境・行動要因を明らかにすることを目的として，身体活動と食物摂取にかんする調査をおこなった．著者は 2002 年から 2006 年にかけて 16 ヶ月間にわたって調査地に滞在し，トンガ語を十分に習得して調査地域の人々とのラポールを築いたうえで，データ収集に臨んだ．本研究のデータはそのうち後半の 7 ヶ月間の調査にもとづいており，得られた主な結果は以下に要約される．

１．成人 58 人を対象として 6 日間おこなったタイムアロケーション調査から，生業の男女差を反映して，身体活動レベル（Physical Activity Level: PAL）は女性（1.44 ± 0.04）よりも男性（1.58 ± 0.10）で高いと推定された．

２．成人 34 人を対象として計 14 日間おこなった繰り返し 24 時間思い出し法による食物摂取調査から，Feast のある日におけるエネルギー摂取量（男性 3786 ± 930 kcal，女性 3229 ± 1000 kcal）は，feast のない日（男性 2808 ± 571 kcal，女性 2447 ± 460 kcal）よりも有意に高く，トンガにおける feast の習慣が高肥満割合に貢献していることが示唆された。

３．個人ごとに Feast/non-feast におけるエネルギー摂取量の比（Ratio of Energy intake on Feast/non-feast days: REF）をとると，REF は BMI と負の相関をしめし，低い REF はエネルギー摂取調節能力の低さを反映することが示唆された．

以上，本論文は世界的に肥満割合が高いトンガにおいて，身体活動，食物摂取にかんする貴重な定量的データを提供し，さらに REF で表される食行動パターンが肥満の個人差を説明しうる可能性を示した．本研究は，全世界的な健康問題である肥満の環境・行動要因の解明とその解決に重要な貢献をすると期待され，学位の授与に値するものと考えられる．